

2010年10月1日 神鋼環境ソリューション創立記念日にあたって（要約）

社員の皆さん、おはようございます。

本日当社は、神鋼環境ソリューション設立7周年、創業からは56回目の創立記念日を迎えました。創業以来、幾多の困難を乗り越えて会社の発展を支えてこられた諸先輩のご努力とご労苦に対し敬意を表するとともに、“社員が働く喜びと誇りを持てる会社”創りを目指して、グループ1,500人の社員の皆さんとともに、これからもより一層の努力を重ねてまいりたいと思います。

さて、世界経済は激変しました。これまでの欧米中心の市場原理主義・金融至上主義は米国でサブプライムローン問題をひきおこし、2008年秋のリーマンショックは全世界を震撼させました。その後もドバイショックやギリシャショックが続き、欧米の経済は不安を抱えたままで立ち直りの兆しを見い出せていません。その中で、新たに世界経済の牽引車となった中国、インドを始めとする新興国は、すさまじいスピードで経済発展を遂げています。

一方、我が国においては、20年来続くデフレから脱却する糸口はまるで見えていません。設備投資の減少、内需不振、猛烈な円高等の日本経済を巡る重要課題への政府の対策が十分だとは言いがたい状況です。加えて少子高齢化、国・地方自治体の財政赤字増大、年金問題等、政治が、早くこれ等の諸問題に解決の道筋を示すことが期待されます。

このような内外情勢の中で当社は、今年度より2015年に至る中期ビジョンを本年4月よりスタートさせました。

アジア新興国の技術水準の向上と市場の拡大、少子高齢化による日本市場の縮小、地域主権への移行による公共事業のあり方の変化など、当社の事業を取り巻く経営環境を今見通せる範囲で整理し、改めて、「国内市場での事業基盤の強化」「海外市場への進出・拡販」「新規メニュー・事業の創出」を3本柱に据えて、2015年度の経営目標を連結売上高1,000億円、連結経常利益50億円と設定しました。

実際には、既に昨年度よりこれらの取組みは始まっています。すなわち“国内市場での基盤強化”の具体策として、神鋼環境メンテナンスと当社とのグループ内連携をより強化し、長寿・延命化工事、サービス・メンテナンス事業の一層の受注拡大にむけた体制を作り、活動を進めています。

海外展開においては、ベトナムで水処理のプラントの連続受注に成功し、併行して現在では、現地法人化を急いでいます。インドではJINDAL WATERとのJ/V設立を進めており、拡大する市場で具体的な案件も芽生えつつあります。欧州ではガス化の技術の更なる展開に引き続き注力しています。

新たな技術開発についても、低動力海水淡水化プロセスの確立、バイオ天然ガスの導管接続事業の推進等、着々と成果が上がりつつあります。

今年度の業績見通しにつきましては、予算作成時に比べて少なからず好転する見込みです。これは、当初見通しよりも経済状況が好転したことに加えて、ここ数年グループ全社員の努力の結果、収益力が確実に向上してきたことがその理由であります。この機会に皆さんのたゆまぬ精進努力に感謝すると共に今後も是非この傾向を持続させたいと思います。

ここで“安全”について申し上げます。機会ある度に申し上げていますが、企業活動の基本となるのは“安全”です。会社としてもグループを挙げて安全活動を強化し、災害・事故防止に向けた具体的対策も講じますが、皆さん個人個人が自分自身のこととして“安全”という問題に、改めて真剣に取り組む意識を強くもって下さい。

さらに、企業活動で忘れてはならない、“リスク管理”、“企業倫理”、“コンプライアンス”についても、個々人の意識を高め、それを維持継続してください。

内外情勢の如何にかかわらず、現在進めている取組みを着実に実行に移すことができれば、必ずや中期ビジョンで掲げた目標は実現できます。諸先輩と同様、今に働く我々も勇気と情熱をもって行動することによって明るい未来が確実となります。本日創立記念の日に、このことを皆さんと共に確認し、

「地球環境保全や生活環境改善に役立つ技術の提供を通じて、社会に貢献する会社」

「常に企業価値の最大化を求め、社員が働く喜びと誇りを持てる会社」

を目指して、皆さんの先頭に立って邁進することをお約束いたします。

結びにあたり、当社グループの全社員とご家族の皆さまのご安全とご健康を祈念し、私の挨拶といたします。

以上

2010年10月1日

株式会社神鋼環境ソリューション 取締役社長 青木 克規